

所長の模型部屋（第12回）

陸自ファンにはたまらないキットが昨年とうとう出ましたね。近代兵器的なシルエットを持つ通称「スカイシューター」（誰も使っていないけど・・・）

87式自走高射機関砲



私が昭和63年頃、北海道の静内対空射場で第7師団対空実射訓練に参加し、74式戦車の対空重機関銃で数百メートル先の標的機を射撃していた横で、「ドム！ドム！ドム！」と鋭い射撃音で肉眼では見えない数km先の標的機を射撃していました。戦車マニアにはたまらない光景でした。そのころ、LINXというメーカーがレジンキャストキットを発売しており当時2万8千円！（実車も高いが模型も高い！）あれから約20年が過ぎ、このような素晴らしいキットに出会えたことを陸自モデラーとして感謝しております。

皆様も承知のとおりこの車体は74式戦車を基本的に流用しており、配備予定であった第7高射特科連隊の隊員が操縦訓練と整備等の教育のため、私が勤務していた第71戦車連隊の74戦車を使用して交差教育を受講にきていました。それまで彼らはM42対空機関砲を扱っていたので教育は大変だったと思いますが、最新鋭の装備品が配備されるので期待に胸をふくらませていたと思います。

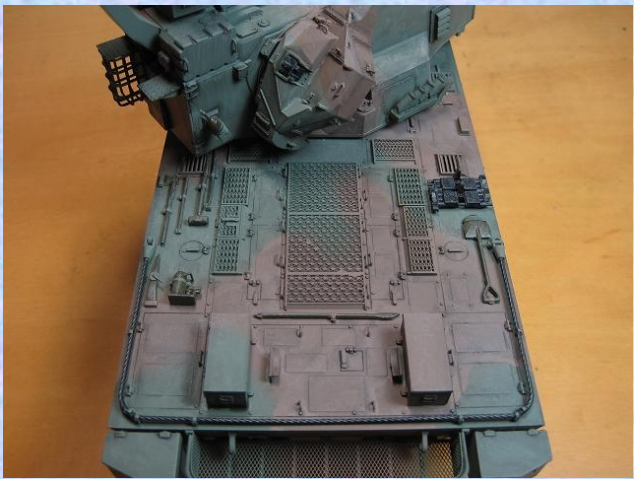
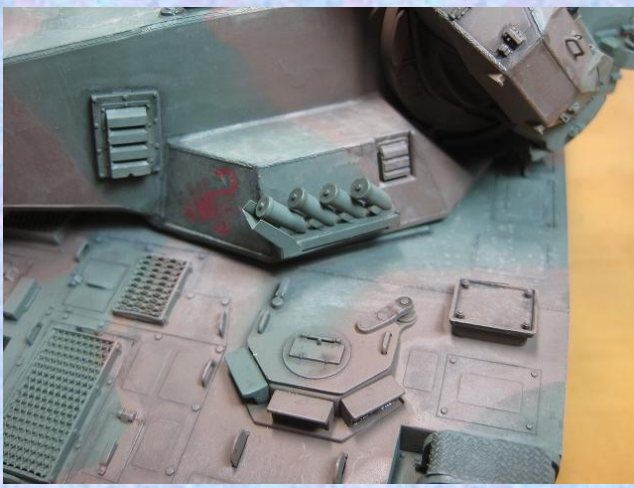
配備後は、演習場でも見かけるようになり、よく中に乗せてもらいました。電子機器が搭載されているため、砲塔の大きさに比して乗員スペースがほとんど無く、74戦車のほうがいいやと思いました。でも、モニターやレーダー画面を見ると胸が熱くなる・・・マニアにとって、たまらない車両です。



キットはもちろんピットロードさん。車体上面にはメッシュのエッチングパーツを取り付けるようになっていますが、砲塔横（車体両中央部）のグリル等、一部実車には取り付けられていない箇所がありますので注意して下さい。色々写真を集めてみて下さい。私もインターネットでありとあらゆる写真を見て勉強しました。乗せてもらったあの時によく写真撮っておけば良かったな・・・



「樽前山上空、敵武装ヘリ！射撃用意！」実際はこの走行姿勢で射撃することはないのですが、レーダーや砲塔をグリングリン回しながら遊んでいます。気が付くと横で娘達が白い目で父親を見ていました。「お父さん、本当にプラモ好きなんだね・・・」と長女がぼやいていました。



キットはストレート組です。キャタピラもカステン使おうかと思いましたが、履帯を余らせてもしょうがないので使いました。車体を転輪を接着せず、キャタピラと転輪を全て接着し、固定した状態で取り外して塗装する「ロコ塗り」をやってみました。後でバラバラになるより接着強度が増すので良かったです。組んだ後、タイヤブラックを吹き付け、後は金属色をドライブラシしてウェザリングステックをカラカラ擦って水で伸ばしてって感じです。迷彩色は、タミヤアクリルを使用しています。ツヤ消しの感じが実車に近いので、ラッカーよりこちらを使用しています。（グンゼの自衛隊色が入手できないのもありますが・・・）茶色と緑色の境界は筆塗りではっきりとさせています。私が野整備において戦車を実際に塗っていたとき、境界をいちいち塗らず、エアスプレーでフリーハンドで塗っていました。今回はそんな反省を込めて、キチンと塗り分けることにしました。（全然反省になってない！）

透明部品で出来ているペリスコープ類は、車体商を塗る下に黒を塗り込み、ガラス感を出しています。土工具はオリブドラブです。ワイヤーはフラットブラックに鉛筆塗り塗りです。

車体後部の泥よけは、プラペーパーで作り直しています。

←コレが「ロコ塗り」

※ROCO社の戦車模型がこの様なパーツ割りであったことから由来した名前





駐屯地において、駐車場に侵入させた後は、この様な状態にしてシートをかぶせます。
可動ギミック満載のこのキットは本当に遊べますね。壊さないように丁寧に動かさなければなりません。



本車が配備されるまで配備されていたM42自走高射機関砲と並べてみました。時代を感じさせます。

さて、次回は、このM42自走高射機関砲といきたいのですが、もう一台、写真に写り込んでいますよね・・・その戦車です。お楽しみに。